

第545回 テレビ岩手放送番組審議会

1. 日 時 2018年10月16日(火) 午後0時45分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 7名

委員 長	三浦 茂樹
副委員 長	恒川 かおり
委員	大橋 綾子
委員	佐藤 健志
委員	渡辺 理雄
委員	前田 千香子
委員	石田 亨

欠席委員 2名

委員	加藤 千晶
委員	高橋 司

社側出席者

檜崎 憲二	(取締役会長)
榎野 信治	(代表取締役社長)
青山 尚之	(専務取締役 兼 営業局長)
畑山 篤	(取締役編成局長)
柴柳 二郎	(報道制作局長)
小形 恵一	(報道制作局報道部長)
金子 真志保	(報道制作局報道部)

事務局 遠藤 隆 (編成局放送番組審議会事務局長)

平山 亜希子 (編成局編成業務部副部長)

4. 議 題

10/6(土) 12:55～13:25 ニュースプラス1特集

～この舞よ、未来へ 若き舞手と山の神～

2. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・ 視聴者からのご意見
- ・ 2018年4月～9月第3週 種別放送時間合計

6. 意見

委員側意見

○地方テレビ局ならではの内容でいい番組だった。地域に伝わる踊りなどが、伝承される姿に日本のいろんな場所で同じようなことが起きているのだろうと推測した。

○早池峰の岳と言う集落は分かっていたが、大償という集落がどこにあるのかが気になったので、簡単な位置関係が分かる地図のほか、早池峰神楽の説明はあったが、最初の方であれば、わかりやすかった。

○継承者と指導者に焦点を当ててその対比で、二人の生き方や姿が浮き彫りにされたことが素晴らしかったし、歳を重ねた人が敬意を集める社会があるのだという事を改めて番組を見て思った。

○現代社会と神楽との矛盾をある意味一手に引き受けている存在なのではと思うが、その彼が番組を通して変化しているという事が素晴らしい。二人の生き方を見て、幸福とはどういう事かを本当に考えるきっかけとなるような番組だったので、こういう番組をもっと作ってほしい。

○指導者を「50年ぶりの舞の名手」と紹介されていたが、主観的でもう少し説明がほしかった。

○神楽を舞うのがどのくらい難しく、どのくらいの稽古が必要で、何を犠牲にしてどう努力しているのかが伝わってこなかった。

○神楽に全く知識がなかったが、今回の番組を通じて知ることが出来たし、これからも機会があれば見てみたいと興味を持った。

○丁寧な番組の作られ方で、作り手の想いを感じたが、取材する対象に導かれるように、清々しい綺麗な番組が出来ていくのかなあと感じた。

○変わっていくものと変えないものとの狭間のジレンマみたいなものを感じた。常に世の中は変わっていくなかで生きているが、文化とか神楽とか変えてはいけない物が一方である訳で、二つの矛盾の中にあるのだと感ずることができた。

局側意見

○「早池峰神楽とは何ぞや」という説明に関しては、「早く二人を登場させて、早く直斗君の人柄に入っていくかかった。」という狙いがあり後に持ってきたが、まず最初に「早池峰神楽がどれだけ凄い物なのか」とか、例えば「県内や全国の神楽団体はこのくらいあるけれども、そのなかで早池峰神楽がどれだけすごいのか」という点を入れた方が良かったと反省している。また、場所についても字幕等で工夫すればよかった。

○舞の説明については、粗筋の様ところ、物語の様ところを充実させたかった。

○主人公の若者は、特殊なところで生きていると感じ、そこに関しての無理な説明をやめ、親近感を持ってもらうため普段大学に通っている様子を紹介するなど苦労した。

7. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日公表の方法

- ①自社放送 10月23日(火) 11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」

②テレビ岩手本社での備え置き

③読売新聞への掲載（別添）

④自社 HP での掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>